

第 79 回 幹 事 会

平成 21 年 6 月 25 日

日 本 学 術 会 議

第79回幹事会議事次第

日時：平成21年6月25日（木） 14：00

- | | | | | |
|----------------------|----------|-------------------------------|--|--|
| I 非公開審議事項
1 委員会関係 | 提案1 | 幹事会附置委員会の設置及び委員の決定 | | |
| | 提案2 | 日本の展望委員会分科会委員の決定 | | |
| | 提案3 | 機能別委員会における要綱の一部改正及び分科会等の委員の決定 | | |
| | 提案4 | 分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定 | | |
| 2 その他 | | 会長談話について
シンポジウム等の開催について | | |
| | | | | |
| II 審議事項
1 提言等 | 提案5 | 提言「経済危機に立ち向かう包摂的社会政策のために」 | | |
| | 提案6 | 報告「人と社会を支える機械工学に向けて」 | | |
| | 2 規則等 | 提案7 | 部が直接統括する分野別委員会の合同分科会について | |
| | | 提案8 | 日本学術会議協力学術研究団体の指定 | |
| | 3 団体の指定 | 提案9 | 平成21年度代表派遣の変更 | |
| | 4 国際会議関係 | 提案10 | シンポジウム「サハラソーラーブリーダー計画」 | |
| | | 提案11 | 市民公開シンポジウム「市民社会のなかの人文・社会科学—市民との対話—」 | |
| | | 提案12 | 日本学術会議第三部主催市民公開講演会～環境共生都市と未来エネルギーを考える～ | |
| | | 提案13 | 公開シンポジウム「今、医療の最前線では？」 | |
| | | 提案14 | 公開シンポジウム「ダーウィン生誕200年記念シンポジウム ダーウィンを越えて—21世紀の進化学」 | |
| | | 提案15 | 公開シンポジウム「今後の肉用牛の改良の方向性—牛肉のおいしさに注目して—」 | |
| | | 提案16 | 公開シンポジウム「社会格差と健康—公衆衛生の重要課題の対策に向けて」 | |
| | | 提案17 | 「サイエンスアゴラ2009～地球の未来 日本からの提案Ⅱ～」 | |
| | | 提案18 | シンポジウム「機械工学の展望—21世紀の役割と貢献—」 | |
| | | 提案19 | 第56回構造工学シンポジウム | |
| | | 6 後援 | 提案20 | 国内会議 |
| | | | | |
| | | III その他 | | 連携会員の補充について
産学官連携イノベーション・プラットフォームについて
最先端研究開発支援プログラム運用基本方針について |

資料2

第79回幹事会（6月25日）出席者一覧

会長		金澤	一郎
副会長		大垣	眞一郎
副会長		鈴木	興太郎
副会長		唐木	英明
第一部	部長	広渡	清吾
第一部	幹事	木村	茂光
第一部	幹事	山本	眞鳥
第二部	部長	浅島	誠
第二部	幹事	山本	正幸
第二部	幹事	鷺谷	いづみ
第三部	部長	岩澤	康裕
第三部	副部長	後藤	俊夫
第三部	幹事	池田	駿介
第三部	幹事	海部	宣男

事務局長 竹林 義久

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 会長談話	1
3 審議付託等	2
4 国際会議の開催	2
5 賞等の推薦	3
6 委員会委員の辞任	3
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	4
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	4
3 機能別委員会の開催とその議題	5
4 分野別委員会の開催とその議題	5
5 課題別委員会の開催とその議題	12
6 インパクトレポート	13
7 サイエンスカフェの開催	18
8 総合科学技術会議報告	18
9 慶弔	18

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行事等	対応者
5月28日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
6月2日(火)	科学技術・学術審議会 第一回基本特別委員会	金澤会長
6月4日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
6月11日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
6月11日(木)	G8学術会議共同声明総理手交	金澤会長、唐木副会長、竹林局長、綱木次長ほか
6月17日(水) ～19日(金)	第9回アジア学術会議(シンガポール)	金澤会長、大垣副会長、唐木副会長、綱木次長、原嶋参事官ほか
6月19日(金)	総合科学技術会議本会議	竹林局長
6月20日(土) ～21日(日)	第8回産学官連携推進会議	鈴木副会長
6月23日(火)	科学技術・学術審議会総会	金澤会長

2 会長談話

「海洋の酸性化についての声明 (IAP Statement on Ocean Acidification)」に関連しての会長談話

日本学術会議が加入している国際学術団体のひとつであるインターアカデミーパネル (IAP: InterAcademy Panel on International Issues) は、6月1日、「海洋の酸性化についての声明 (IAP Statement on Ocean Acidification) *1」を発表しました。

声明では、過去200年間、人間活動に起因して排出されたCO₂の約4分の1が海洋に吸収され、それが海洋の酸性化をもたらしていると指摘し、そのことに警告を発しています。

海洋の酸性化問題は、珊瑚礁や海洋生物の生物多様性に深刻な影響を及ぼすばかりでなく、食糧生産や家畜等、人々の生活に大きく関わってきます。そのため、声明においては、世界の指導者に向けて、本問題の重要性を認識し、CO₂排出の抑制に努めるよう呼びかけています。

また、本年12月にコペンハーゲンにて開催予定となっている「気候変動枠組条約第15回締約国会議*2 (COP*315)」の議題の一つとしてこの問題も取り上げるよう呼びかけています。

現在100を数えるIAP加盟アカデミーの内、70のアカデミーが本共同声明に賛同の意を表明しております。

日本学術会議としては、2004年以来、執行委員メンバーとしてIAPの活動に関与しており、今回のIAP声明についても発案当初の運営委員会 (steering committee)

のメンバーとして2名が参画し、積極的に声明作成の過程に貢献して参りました。世界の科学アカデミーからの警告としての本声明を受けて、海洋の酸性化に関する問題にも政策当局及び広く一般社会の目が向けられ、その影響が少しでも緩和されることを願わずにはられません。

また、今後も、地球規模の課題について、世界の科学アカデミーが充分その機能を発揮し、共同して適切な提言を行ってゆくことで、その状況を改善することに貢献できるよう、努力を続けて参りたいと思います。

平成 21 年 6 月 15 日

日本学術会議会長

金澤 一郎

* 1 : IAP 声明「海洋の酸性化についての声明 (IAP Statement on Ocean Acidification)」

http://www.interacademies.net/Object.File/Master/9/075/Statement_RS1579_IAP_05.09final2.pdf

* 2 : <http://www.ambtokyo.um.dk/ja/menu/COP15/WhatIsCOP15/>

* 3 : Conference of Parties (締約国会議)

3 審議付託等

件名	申請者	審議付託先
第35回全国語学教育学会年次国際大会後援	特定非営利活動法人全国語学教育学会代表者	第一部
文部科学省次世代IT基盤構築のための研究開発第1回「イノベーション基盤シミュレーションソフトウェアの研究開発」プロジェクトシンポジウム後援	東京大学生産技術研究所長	第三部
「機械の日」・「機械週間」後援	社団法人日本機械学会会長	第三部
日本学術会議協力学術研究団体の指定	国際アジア共同体学会他	科学者委員会

4 国際会議の開催

開催日	会議名	会場
6月17日～19日	第9回アジア学術会議 (総会・理事会・ワークショップ) 【開催国】 シンガポール (科学技術研究庁： Agency for Science, Technology and Research (A*STAR)) 【参加国】 中国、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、 モンゴル、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム (計 11カ国：全メンバー国からの参加を得た) 【日本からの参加者】	グランド・コプソ ーン・ウォーター フロント・ホテル (シンガポール)

	<p>金澤一郎会長、唐木英明副会長、大垣眞一郎副会長他講演者等 26 名</p> <p>【主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 金澤一郎会長（日本代表）／村岡洋一会員（SCA 事務局長）の参加による理事会及び総会 ○ 基調講演:A*STAR 長官 リム・チュアウ・ポー氏 (Mr. Lim Chuau Poh) ○ 第 1 回新体制検討委員会 ○ SCA 共同プロジェクト・ワークショップ等 <p>共同プロジェクト</p> <p>「水」：大垣眞一郎副会長他、参加者計 18 名（東京大学との共同主催）</p> <p>「自然災害」：加藤照之会員他、計 5 名</p> <p>「ジェンダー」：原ひろ子会員他、計 10 名</p> <p>「みつばち」：木村澄会員他、計 7 名</p> <p>「海洋安全」：栗林忠男会員他、計 20 名</p> <p>「地震電磁気」：湯元清文会員他、計 15 名</p> <p>スペシャル・セッション</p> <p>「タレント (Talent)」：A*STAR 他より、計 3 名</p> <p>「ポップカルチャー」：藤井省三会員他、計 50 名 (シンガポール・南洋理工大学との共同主催)</p>	
--	---	--

5 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
2009 B B V A 賞	各部	推薦なし

6 委員会委員の辞任

- 健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会 南 裕子（平成 21 年 4 月 9 日付）
- 総合工学委員会工学基盤における知の統合分科会
真壁 利明（平成 21 年 5 月 22 日付け）
- 臨床医学委員会身体機能回復分科会 桐野 高明（平成 21 年 6 月 15 日付）
- 心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・
土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会成育空間に関する政策提案
検討小委員会 定行 まり子（平成 21 年 6 月 16 日付）

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

- (1) 第一部拡大役員会（第5回）・日本の展望委員会
人文・社会科学作業分科会（第5回）合同会合 （5月28日）

①報告

- 1) 幹事会
- 2) 機能別委員会
- 3) 日本の展望・起草分科会
- 4) その他

②協議事項

- 1) 夏季部会の件
 - ・連携会員の出席について
- 2) 日本の展望について
 - ・分野別委員会の審議状況
 - ・人文・社会科学作業分科会報告案について
 - ・その他

- (2) 第三部拡大役員会（第8回）（5月29日）

- ①幹事会の報告 ②日本の展望について（各分野別委員会推挙状況）
- ③理学・工学学協会連絡協議会発足（WG設置）について
- ④数物・工学系教育の強化について
- ⑤夏季部会について
- ⑥日本学術会議分野別委員会等主催シンポジウムの在り方について
- ⑦その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

- (1) 日本の展望委員会 基礎科学の長期展望分科会（第7回）（6月2日）

- ①報告書のとりまとめについて ②その他

- (2) 日本の展望委員会 「個人と国家」分科会 役員会（第2回）（6月5日）

- ①報告第1次案（WG案）の検討 ②今後の作業日程について ③その他

- (3) 日本の展望委員会 持続可能な世界分科会（第5回）（6月5日）

- ①報告書のまとめについて ②その他

- (4) 日本の展望委員会 人文・社会科学作業分科会 (第6回) (6月16日)
①人文・社会科学作業分科会報告書案の重点事項についての検討
②その他

- (5) 日本の展望委員会 情報社会分科会 (第6回) (6月26日)
①報告書案について ②その他

3 機能別委員会の開催とその議題

- (1) 科学者委員会 学協会の機能強化方策検討等分科会 (第6回) (5月30日)
①シンポジウム「学協会の新公益法人制度への対応の現状と課題」の打合せ
②今後の検討課題について ③その他

- (2) 科学者委員会 学術誌問題に関する検討分科会 (第3回) (6月10日)
①委員の追加について ②「学術情報へのアクセスの平等化」及び「国内発行の英文誌発送の必要性、発刊体制」について ③今後の進め方について ④その他

- (3) 科学者委員会 広報分科会 (第5回) (6月12日)
①日本学術会議の広報活動について ②『学術の動向』への編集協力について

- (4) 科学と社会委員会 科学力増進分科会 (第7回) (6月23日)
①サイエンスアゴラ2009について ②サイエンスカフェについて
③今期活動について ④その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

- (1) 法学委員会 ファミリー・バイオレンス分科会 (第2回) (6月1日)
①報告：棚村正行委員「ファミリーバイオレンスー児童虐待とDVとの関係」
②その他

- (2) 経済学委員会 現代経済政策史史料適正保存促進分科会 (第4回) (6月5日)
①地方公共団体の公文書館等の実情について ②施設見学 ③その他

- (3) 地域研究委員会 人文・経済地理と地域教育(地理教育を含む)分科会
(第3回) (6月5日)
①地域展望分科会について ②地域発展の提言・報告書等について
③学士力について ④地理教育小委員会について ⑤その他

- (4) 社会学委員会 社会変動と若者問題分科会 (第3回) (6月6日)

①今後の活動について ②シンポジウム打ち合わせ ③その他

(5) 経済学委員会 数量的経済・政策分析分科会 (第1回) (6月7日)

①特任連携会員の承認について ②今後の分科会活動について ③その他

(6) 地域研究委員会 地域情報分科会 (第1回) (6月8日)

①地域研究委員会「日本の展望」の内容について

②今年度の地域情報分科会の活動計画について ③その他

(7) 史学委員会 日本の展望史学分科会 (第2回) (6月8日)

①「日本の展望」の取りまとめ・作成 ②その他

(8) 社会学委員会 日本の展望社会学分科会 (第3回) (6月12日)

①報告書の最終案について ②その他

(9) 社会学委員会 ジェンダー研究分科会 (第3回) (6月12日)

①話題提供：伊藤るり委員 「国際労働移動とジェンダー」

岡野八代委員 「公正とジェンダー」

②公開講演会のテーマについて

(10) 史学委員会 国際歴史学会議等分科会 (第2回)・

国際歴史学会議小委員会 (第1回) 合同会議 (6月12日)

①国際歴史学会議理事会に伴う学術集会・公開講演会について ②その他

(11) 社会学委員会・経済学委員会合同

包摂的社会政策に関する多角的検討分科会 (第3回) (6月12日)

①報告事項

1) 3月シンポジウムの記録その他について

2) 「提言」取りまとめの経過について

②審議事項

1) 21年度の活動方針について

2) 次回シンポジウムの企画について

3) その他

(12) 哲学委員会 芸術と文化環境分科会 (第2回) (6月13日)

①今後の活動計画 ②その他

(13) 第一部関連分野別委員会合同 AASSREC・IFSSO分科会

(第4回) (6月13日)

①本日の公開講演会について ②AASSREC2009年総会について

③その他

- (14) 地域研究委員会 多文化共生分科会 (第4回) (6月13日)
①今後の進め方について ②その他
- (15) 法学委員会 「公の構造変化」分科会 (第3回) (6月13日)
①報告書：嶋津委員、滝澤委員 ②その他
- (16) 法学委員会 「グローバル化と法」分科会 (第3回) (6月14日)
①グローバル化と刑事法教育及び研究 ②その他
- (17) 社会学委員会 社会福祉学分科会 (第3回) (6月15日)
①今後の大学院教育(修士課程、博士前期課程、博士後期課程、専門職大学院)のあり方について ②日本社会福祉教育学校連名の大学院についての調査
③その他
- (18) 法学委員会 生殖補助医療と法分科会 (第3回) (6月15日)
①「子の親を知る権利」について(二宮委員) ②その他
- (19) 社会学委員会 福祉職・介護職育成分科会 (第4回) (6月15日)
①提言について ②その他
- (20) 史学委員会 博物館・美術館等の組織運営に関する分科会
(第3回) (6月15日)
①指定管理者制度の現状と問題点について
②真鍋先生、井上先生、本田先生のご報告ほか ③その他
- (21) 社会学委員会 メディア・文化研究分科会 (第3回) (6月16日)
①公開講演会に応募するテーマと内容について ②その他
- (22) 心理学・教育学委員会 教育の質向上検討分科会 (第2回) (6月25日)
①話題提供：無藤 隆委員・勝野 正章氏(特別講師) ②その他

第二部担当

- (1) 農学委員会 農業生産環境工学分科会 (第3回) (6月2日)
①農業環境工学教育について ②遺伝子組み替え実験施設の提言書の確認について ③その他
- (2) 農学委員会 風送大気物質問題分科会 (第3回) (6月8日)

①黄砂・大気汚染関係の提言の検討 ②今後の推進方向 ③その他

(3) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 海洋生物学分科会
(第2回) (6月8日)

- ①新委員の紹介 ②日本の展望 報告書の提出について
- ③海洋生物学分科会の取り扱うべき学術分野について
- ④今後の活動方針について ⑤その他

(4) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・
薬学委員会・情報学委員会合同 バイオインフォマティクス分科会
(第2回) (6月12日)

- ①「日本の展望」報告書作成における本分科会からの貢献について
- ②サイエンスアゴラにおける応用生物学委員会主催予定フォーラムへの参画について
- ③CBD COP10に向けた応用生物学委員会の取り組みへの本分科会からの貢献について ④その他

(5) 臨床医学委員会 障害者との共生分科会 (第3回) (6月15日)

- ①寺島彰先生からのヒアリング ②各小委員会報告 ③その他

(6) 臨床医学委員会 身体機能回復分科会 (第1回) (6月15日)

- ①分科会委員長、副委員長、幹事の選出 ②今後の活動について ③その他

(7) 心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会、
環境学委員会、土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会
(第6回) (6月16日)

①報告

- 1) 小委員会からの報告
 - ・調査小委員会
 - ・成育空間に関する政策提案検討小委員会
 - 2) 「日本の展望」への提案に関する本分科会からの修正意見について
- ②分科会提言(案)について
- 1) 提言内容について
 - ・大項目の妥当性：項目に入らなかった課題等の有無
 - ・現状と課題・改善方策・提言の検討
 - ・全体的提言について
 - 2) 提言(案)の項目別起草担当者(責任者)について
 - 3) 提言(案)作成のスケジュールについて
- ③その他

(8) 基礎生物学委員会・応用生物学胃合同 発生生物学分科会

(第1回) (6月17日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出
- ②第21期の分科会活動方針について
- ③その他

(9) 農学委員会・食料科学委員会合同 遺伝子組換え作物分科会

(第1回) (6月18日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出
- ②今後の活動方針について
- ③他の分科会等との連携について
- ④その他

(10) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・地球惑星科学委員会合同

自然史・古生物学分科会 (第2回) (6月18日)

- ①サイエンスアゴラ(2009年10月31日)での統合生物学をアピールするシンポジウム実施案について
- ②生物多様性の日(2010年5月22日)にむけた提言など活動案について
- ③その他

(11) 応用生物学委員会 (第4回) (6月19日)

- ①「日本の展望」における応用生物学委員会の報告作成について
- ②サイエンスアゴラにおける応用生物学委員会主催フォーラムの企画について
- ③CBD COP10に向けた応用生物学委員会の取り組みについて
- ④その他

(12) 健康・生活科学委員会 子どもの健康分科会 (第5回) (6月19日)

- ①提言案について
- ②その他

(13) 臨床医学委員会 放射線・臨床検査分科会 (第2回) (6月22日)

- ①Autopsy Imaging (AI) について
- ②その他

(14) 歯学委員会 病態系歯学分科会 (第2回) (6月22日)

- ①歯科領域で使用されている名称の定義、使用法について
- ②その他

(15) 健康・生活科学委員会 生活科学分科会 (第4回) (6月23日)

- ①健康・生活科学委員会(親委員会)の報告事項について
- ②第21期の活動について
- ③その他

第三部担当

(1) 化学委員会 物理化学・生物物理化学分科会 (第3回) (5月27日)

- ①「日本の展望—化学からの提言」の本分科会からの報告「物理化学・生物物理化学の将来展望」及び「緊急提言」の内容について

- (2) 化学委員会 化学工学・触媒工学分科会 (第3回) (5月29日)
- ①「日本の展望－化学からの提言」の本分科会からの報告及び「緊急提言」の内容について
- (3) 電気電子工学委員会 電気電子工学のあり方検討分科会
(第1回) (5月29日)
- ①電気電子工学のあり方検討分科会の役員選出
 - ②分科会の役割とすすめ方について ③その他
- (4) 総合工学委員会 巨大複雑系社会経済システムの創成力を考える分科会
(第4回) (6月1日)
- ①話題提供 「巨大複雑系としてみる金融・社会システム」高安委員
 - ②第21期分科会活動の各タスクの進め方について ③その他
- (5) 情報学委員会 ウェブ・メディア社会基盤分科会 (第3回) (6月4日)
- ①「ウェブ・メディアを取り巻く課題と今後の方向感」に関する意見交換
 - ②その他
- (6) 地球惑星科学委員会 IGU分科会 (第3回) (6月5日)
- ①IAG小委員会について ②ICA小委員会について
 - ③IGU京都地域会議準備委員会について
 - ④IGUとの連携の強化について ⑤地理教育小委員会について
 - ⑥「アジア太平洋地理オリンピック」及び「IGU地理教育コミッションつくば大会2009」について
 - ⑦地理学連携機構について ⑧地球惑星科学連合について
 - ⑨ジオパークについて ⑩その他
- (7) 環境学委員会 環境科学分科会 (第2回) (6月8日)
- ①日本の展望委員会への提言のまとめ ②その他
- (8) 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM分科会
(第2回) (6月9日)
- ①第57回理論応用力学講演会報告 ②第58回理論応用力学講演会について
 - ③自己点検評価書について ④その他
- (9) 土木工学・建築学委員会 拡大役員会 (第4回) (6月12日)
- ①「日本の展望」及び「緊急課題提言」のとりまとめについて
 - ②各分科会の活動状況報告
 - ③その他 (関連学協会との連携、今後のスケジュール等)
- (10) 土木工学・建築学委員会 低炭素建築・都市分科会 (第3回)・土木工学・

建築学委員会 社会資本分科会（第3回）合同分科会（6月15日）

①話題提供：柏木委員 ②今後の活動 ③その他

**(11) 健康・生活科学委員会・環境学委員会合同 環境リスク分科会
（第2回）（6月16日）**

①リスク分野の人材育成の各分野の現状について

話題提供：貫成委員 全般的な観点から

吉野委員 室内環境・建築分野から

森本委員 大学関連（大阪大学の例を中心に）

②その他

**(12) 物理学委員会 IAU分科会（第5回）・物理学委員会
天文学・宇宙物理学分科会（第5回）合同分科会（6月16日）**

①諸報告 ②国際分科会からの評価依頼について

③「日本の展望」に向けた分野報告の案について ④その他

(13) 地球惑星科学委員会 IUGG分科会（第2回）（6月17日）

①IAGA問題 ②IUGG活動 ③IUGG分担金の未払い（不足）の問題

④各小委員会の活動報告 ⑤その他

**(14) 総合工学委員会 エネルギーと人間社会に関する分科会
（第2回）（6月17日）**

①話題提供 1) 鈴木委員 2) 小林委員 ②その他

(15) 総合工学委員会 総合工学企画分科会（第2回）（6月17日）

①日本の展望について ②その他

(16) 電気電子工学委員会 制御・パワー工学分科会（第3回）（6月18日）

①分科会の課題 ②「日本の展望」について

③第1回「電気電子工学のあり方検討分科会」におけるシンポジウム

「電気電子工学分野の将来像」

（5月29日（金）13：30－17：00開催）

④電気電子工学委員会原稿（20ページ）執筆について ⑤今後の活動方針

⑥次回予定 ⑦その他

(17) 機械工学委員会 生産科学分科会（第1回）（6月19日）

①委員長、副委員長、幹事等の選出 ②第20期の活動報告

③第21期の活動方針 ④今後のスケジュール ⑤その他

(18) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 力学基盤工学分科会

(第1回) (6月19日)

- ①委員長、副委員長、幹事等の選出
- ②第20期の活動のまとめ
- ③第21期の活動計画について
- ④その他

(19) 物理学委員会 (第5回) (6月22日)

- ①日本の展望の原稿
- ②学会との連絡会
- ③初等中等教育に関して
- ④その他

(20) 化学委員会 分析化学分科会 (第2回) (6月23日)

- ①化学(分析化学)の近未来の提言について
- ②その他

(21) 化学委員会 化学者コミュニティ連携強化検討分科会 (第2回) (6月23日)

- ①「日本の展望」への提言について
- ②「第4期化学技術基本計画」への要望について
- ③第21期分科会活動方針について
- ④その他

(22) 情報学委員会 ユビキタス空間情報社会基盤分科会 (第5回) (6月24日)

- ①分科会提言の具体化案に関する議論
- ②国土交通省との話し合いの進め方について
- ③その他

(23) 地球惑星科学委員会 地球惑星科学企画分科会 (第7回) (6月24日)

- ①日本の展望素案について
- ②「理学・工学系学協会連絡協議会」代表委員候補
- ③各分科会報告
- ④今後の課題
- ⑤その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会

大学と職業との接続検討分科会 (第1回) (6月9日)

- ①委員長、副委員長及び幹事の選出について
- ②今後の進め方について
- ③その他

(2) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 教養教育・共通教育検討

分科会 (第6回)・日本の展望委員会 知の創造分科会 (第4回) 合同分科会
(6月12日)

- ①今後の検討の方向性について
- ②その他

(3) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証枠組み検討分科会

(第5回) (6月12日)

- ①今後の検討の方向性について
- ②その他

(4) 人間の安全保障とジェンダー委員会 (第1回) (6月15日)

- ①役員の選出
- ②今後の方針について
- ③その他

- (5) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証枠組み検討分科会
役員会（第1回）、教養教育・共通教育検討分科会役員会（第1回）、
大学と職業との接続検討分科会役員会（第1回）合同役員会（6月23日）
①今後の検討の方向性について ②その他
- (6) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会
大学と職業との接続検討分科会（第2回）（6月23日）
①有識者からのヒアリングについて ②今後の検討の方向性について
③その他
- (7) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 教養教育・共通教育検討
分科会（第7回）・日本の展望委員会 知の相当分科会（第5回）
合同分科会（6月25日）
①有識者からのヒアリングについて ②今後の検討の方向性について
③その他

6 インパクトレポート

要望「信頼に支えられた医療の実現—医療を崩壊させないために—」 インパクト・レポート

1 要望内容

進みつつある危機から医療を守るためには、長期的視野に立った医療のイノベーションが必要である。同時に、医療を崩壊させないための取り組みを急がなければならない。とりわけ、最も危機が深刻になっている病院医療を持続可能にするための環境整備が喫緊の課題である。

医療は本来、医療を提供する側とそれを受ける側との信頼関係から出発するものであり、あらゆる改革の成功は信頼の構築にかかっている。医療の信頼を保証できる制度を確立することが、医療全体のイノベーションを推し進める根幹となるのである。

日本学術会議は、国民に信頼される持続可能な医療を実現するため、医療に関係する諸団体の個別の立場を超えた学術的で中立的な見地から、医療崩壊という絶対に避けるべき緊急事態を回避するために、政府に対して、省庁の枠を超えた強力な「医療改革委員会」（仮称）を設置し、下記の三項目を審議することを強く要望した。

(1) 医療費抑制政策の転換

わが国の医療の崩壊を食い止めるため、従来の厳しい医療費抑制政策を速やかに見直し、他の先進諸国と同様な水準の資源投入を行うようにすること。

(2) 病院医療の抜本的な改革

特に危機的状況にある病院医療について、実働医師の不足対策を中心とした抜本的な改革の検討を速やかに開始し、3年以内に実施すること。

(3) 専門医制度認証委員会の設置

専門医制度を根本的に見直し、新しい制度を確立するために、「専門医制度認証委員会」(仮称)の設置を速やかに実現し、10年以内に新しい専門医制度の体制整備を完了すること。

2 要望年月日

平成20年6月26日

3 社会的インパクト

(1) 政策

要望では、政府が省庁の枠を超えた強力な「医療改革委員会」(仮称)を設置することを強く要望しているが、その要望に対する政府のレスポンスは少ない。しかし、本要望を出した平成20年6月当時と比較すると、従来の医療費抑制政策のみでは、わが国の医療は崩壊する可能性があり、一定程度の資源の投入が必要であるという考え方は政府部内にも拡がりつつあるように思われる。また、現状の医療危機は特に病院において深刻であり、その中でも病院勤務医の勤務の実態を改善して、そのマンパワーを充分発揮できるような改革が必須であることについては、理解が進んだと考える。専門医制度に関しては、厚生労働省の平成20年度厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)において「医療における安心・希望確保のための専門医・家庭医(医師後期臨床研修制度)のあり方に関する研究」(班長 国立がんセンター中央病院 土屋了介院長)での検討が始まり、その第3回班会議(平成20年11月6日開催)において、日本学術会議医療のイノベーション検討委員会を代表して、専門医制度に関する意見を述べた。同研究班から出された総括報告書において、学術会議の要望「信頼に支えられた医療の実現—医療を崩壊させないために—」の内容が参考にされている。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

日本医師会平成20年9月17日開催の第2回医療政策会議において、要望に関する講演をおこない、その趣旨を説明した。

学術会議講堂において、平成20年8月25日に日本内科学会、日本外科学会、日本病院会共催により、公開シンポジウム「信頼に支えられた医療の実現」を開催し、多数の聴衆が参加した。その内容は、学術会議機関誌「学術の動向」平成20年12月号の特集として掲載している。

日本看護系学会協議会は平成20年12月14日開催のシンポジウム「看護の役割拡大に向けてのイノベーション」において、シンポジウムの開催趣旨の中で、要望を引用している。

4 メディア

- ・ 要望を公表した後に、記者会見をおこない、一般紙、医療関係メディアに対して、要望の内容についての説明を行った。
- ・ メディファックス 5439 号（平成 20 年 7 月 4 日）において、日本病院会の山本修三会長が山形市内で開催された日本病院会において講演をおこない、要望に沿い政府が「医療改革委員会」を設置することに期待すると報じた。
- ・ 要望の内容について、日本医事新報 No. 4393（平成 20 年 7 月 5 日）のニュースで「新しい専門医制度の確立を一医療崩壊回避に向けた要望書を政府に提出」と報じられた。
- ・ 病院新聞は 2034 号（平成 20 年 7 月 10 日）において、日本学術会議が政府に医療崩壊の阻止を提言した、と報じた。

5 考察と自己点検

医療のあり方は、特に産科、小児科、救急医療の危機が叫ばれ、医師不足が各地で危惧されるようになって、国民的課題になりつつあるのは明らかである。しかし、医療を崩壊させないためには、まず医療に対する資源の投入が必須であり、そのためにはその財源の問題を避けて通れない。このような問題は、学術の問題と言うよりは高度な社会的・政治的な問題であり、学術会議から出された要望が十分な力を出し切れていないのは、このようなところに限界があったものと思われる。そのような限界はあったものの、この文書はさまざまな所で引用されており、今後一つの医療改革のレファレンスとして使用されることが期待される。

インパクト・レポート作成責任者

医療のイノベーション検討委員会委員長 桐野 高明

7 サイエンスカフェの開催

(1) 6月19日(金) 18:30~20:30

場 所: サロンド富山房 Folio

テーマ: ブレークスルーの科学は予測できない

講 師: 五島 綾子 (サイエンスライター IUPAC Fellow)
室伏 きみ子 (お茶の水女子大学教授 日本学術会議第二部会員)

8 総合科学技術会議報告

1. 本会議

(第82回)

6月19日

- (1) 第3期科学技術基本計画のフォローアップと基本政策専門調査会の設置
- (2) 平成22年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針
- (3) 最先端研究開発支援プログラムの運用の基本方針及び支援会議の設置

2. 専門調査会

○評価専門調査会 (第80回) 6月4日

- (1) 評価専門調査会 (第79回) 議事概要 (案) について
- (2) 総合科学技術会議が必要と認め指定して行う評価について【議題1】
- (3) 平成19年度に実施した「国家的に重要な研究開発の事前評価」のフォローアップについて【議題2】
- (4) その他

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

- | | | |
|---|-------|---------------|
| ・ | 5月28日 | *会長出席 |
| ・ | 6月4日 | *会長出席 |
| ・ | 6月11日 | *会長出席 |
| ・ | 6月18日 | *会長欠席 (出張のため) |
| ・ | 6月25日 | *会長出席予定 |

9 慶弔

○ご逝去

- | | | | |
|-----------------|-----|-------|-------------------------|
| 正田 彬 (しょうだあきら) | 80歳 | 6月1日 | 第13~14期会員
慶應義塾大学名誉教授 |
| 坂部 恵 (さかべめぐみ) | 73歳 | 6月3日 | 第20~21期連携会員
東京大学名誉教授 |
| 金澤 史男 (かなざわふみお) | 55歳 | 6月16日 | 第21期連携会員
横浜国立大学教授 |

審 議 事 項

		頁
Ⅱ 審議事項		
1 提言等	提案5 提言「経済危機に立ち向かう包摂的社会政策のために」	1
	提案6 報告「人と社会を支える機械工学に向けて」	2
2 規則等	提案7 部が直接統括する分野別委員会の合同分科会について	3
3 団体の指定	提案8 日本学術会議協力学術研究団体の指定	12
4 国際会議関係	提案9 平成21年度代表派遣の変更	14
5 シンポジウム等	提案10 シンポジウム「サハラソーラーブリーダー計画」	16
	提案11 市民公開シンポジウム「市民社会のなかの人文・社会科学—市民との対話—」	19
	提案12 日本学術会議第三部主催市民公開講演会～環境共生都市と未来エネルギーを考える～	20
	提案13 公開シンポジウム「今、医療の最前線では？」	21
	提案14 公開シンポジウム「ダーウィン生誕200年記念シンポジウム ダーウィンを超えて—21世紀の進化学」	23
	提案15 公開シンポジウム「今後の肉用牛の改良の方向性—牛肉のおいしさに注目して—」	25
	提案16 公開シンポジウム 「社会格差と健康—公衆衛生の重要課題の対策に向けて」	27
	提案17 「サイエンスアゴラ2009～地球の未来 日本からの提案Ⅱ～」	29
	提案18 シンポジウム「機械工学の展望—21世紀の役割と貢献—」	31
	提案19 第56回構造工学シンポジウム	33
5 後援	提案20 国内会議	35
Ⅲ その他		

5	
幹事会	79

提 案

提言「経済危機に立ち向かう包摂的社会政策のために」

- 1 提 案 者 社会学委員会委員長、経済学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 第20期以来、社会学委員会経済学委員会合同で包摂的社会政策に関する多角的検討分科会を設置し、現下の厳しい雇用並びに生活危機の情勢等について、これまで審議してきた結果を別添のとおりとりまとめたので、関係機関に対する提言として、これを外部に公表したい。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

6	
幹事会	79

提 案

報 告

「人と社会を支える機械工学に向けて」

1. 提案者 機械工学委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 機械工学委員会機械工学ディシプリン分科会における報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の

「報告」として取り扱うこと

7	
幹事会	79

提 案

部が直接統括する分野別委員会の合同分科会について

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 標記について、別添のとおり決定すること。
- 3 提案理由 部が直接統括する分野別委員会の合同分科会について、その設置の手續、名称、意思の表出に係る手續等を定める必要があるため。

部が直接統括する分野別委員会の合同分科会について

平成 2 1 年 月 日
日本学術会議第 回幹事会決定

複数の分野別委員会により共同して置かれる分科会のうち、第1の各号に掲げる要件を満たすものについては、その設置の手續、名称及び意思の表出に係る手續については、第2の各号に掲げるとおりとする。

第1

1 (案1) 各部がつかさどる分野内におけるすべての分野別委員会が共同で取り組むことが適当な課題であつて、異なる部がつかさどる分野にまたがらないものを審議する分科会であること

(案2) 各部がつかさどる分野内におけるすべての分野別委員会が共同で取り組むことが適当であると部が認める課題を審議する分科会であること

参考：課題別委員会の審議課題

学際的・分野横断的で緊急に提言が必要な政策課題、政府等から検討の依頼があつた課題であるなど日本学術会議として審議することが社会的に求められている課題、または社会的に必要であつて日本学術会議から社会に提言する必要があると考えられる課題
(課題別委員会の設置の在り方について(平成18年3月23日幹事会決定)より)

2 部が直接統括することが適当であると幹事会が認める分科会であること

第2

1 幹事会への当該分科会の設置の提案については、予定されている審議課題をつかさどる部(以下「担当部」という。)の部長が行うものとし、提案の様式については、委員会の分科会等の設置提案をする際に用いる付属様式等について(平成18年2月23日日本学術会議第9回幹事会申合せ)の定めにかかわらず、別紙のとおりとする。

2 当該分科会の名称については、幹事会の承認を得て、「第〇部〇〇分科会」とすることができる。

3 当該分科会における審議結果に基づく意思の表出については、日本学術会議の運営に関する内規(平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定)第3条第2項及び日本学術会議分野別委員会及び分科会等について(平成20年10月23日日本学術会議第67回幹事会決定)の定めにかかわらず、担当部の承認を得て、担当部の部長が幹事会に提案するものとする。

附 則

- 1 この決定は、決定の日から施行する。
- 2 この決定の施行日において現に存在する複数の分野別委員会により共同して置かれる分科会であって、第1の各号に掲げる要件を満たすものについては、その名称及び意思の表出に係る手続を、第2の第2号及び第3号に掲げるとおりとすることができる。その場合において、幹事会への提案については、当該分科会の審議課題をつかさどる部の部長が行うものとし、提案の様式については、別紙のとおりとする。

(別紙)

部が直接統括する分野別委員会の合同分科会の設置について

合同分科会の名称：_____

1	担当部及び関係委員会名	
2	委員の構成	
3	設置目的	
4	審議事項	
5	設置期間	時限設置 年 月 日～ 年 月 日
		常設
6	備考	

【記載要領】

設置する分科会一つにつき1枚、別紙様式の各項目を御記入の上、事務局の担当者に御提出ください。

○ 分科会の名称

新たに設置する分科会の名称を記入してください。

(例)「第○部○○分科会」

1 担当部及び関係委員会名

予定されている審議課題をつかさどる部及び関係委員会の名称を記載してください。

2 委員の構成

分科会の委員の構成を記入してください。なお、人数については、分科会として活動できる人数の範囲を考慮の上、記入してください。また、担当部及び関係委員会との関係を可能な限り明示してください。

(例)「○名以内の会員及び×名以内の連携会員(第○部の部長、副部長及び幹事並びに○○委員会の委員長を充てる)」

3 設置目的

分科会の設置目的を200～300字程度で記入してください。なお、当該分科会を担当部が直接統括する必要性についても記入してください。

4 審議事項

分科会における審議事項を50字以内で記入してください。なお、具体的な課題を設定して審議を行う場合は、そのことを示して報告書の作成時期についても記入してください。

(例) ・具体的な課題を設定しない場合

「○○○○○の審議に関すること。」

・具体的な課題を設定する場合

「○○○○○の審議に関すること。なお、□年△月を目途に報告書を作成する。」

5 設置期間

「時限設置」又は「常設」のいずれかに○印を付けてください。また、「時限設置」の場合には、始期と終期を記入してください。

6 備考

その他付記すべき事項について記入してください。なお、この決定の施行日において現に存在する複数の分野別委員会により共同して置かれる分科会であって、附則第2項の規定により幹事会への提案を行うものについては、その旨及び当該分科会の旧名称を記入してください。

(例)「部が直接統括する分野別委員会の合同分科会について(平成21年 月 日日本学会議第 回幹事会決定)附則第2項の規定により、○○委員会・△△委員会合同××分科会を、部が直接統括する合同分科会とするもの」

部に分科会を置くことについて

1 現行の合同分科会設置方式の問題点

(1) 責任主体が曖昧

全ての委員会の合同分科会として審議を行うため、部と委員会、合同分科会の関係、責任の所在が曖昧。

(2) 提言・報告の取りまとめの際の手続上の問題

全ての関連委員会の承認を得て、全ての関連委員会の委員長の名で幹事会に提出することが必要。

2 対応案

分科会に対する部のイニシアチブの明確化



意思の表出の手続の簡素化

幹事会決定により、事実上、部に分科会を設置したと同等の扱いを実現する。

形式的には、各委員会の合同分科会の形をとるが、幹事会決定により、以下の措置を担保することにより、実質上、部が統括する分科会を置けるようにする。

- ① 分科会の設置の提案を部が行えるようにする。
- ② ○○部○○分科会の名称を使用できるようにする。
- ③ 分科会の審議結果に基づく意思の表出は、審議課題をつかさどる部の審議を経て、当該部の部長が幹事会への議案提出、幹事会における説明を行うこととする。

メリット：○ 現行の合同分科会の形式を取ることで、予算上問題がない。

- 幹事会決定を経ればすぐにでも施行できる。

(参考) 関連規定

●委員会の分科会等の設置提案をする際に用いる付属様式等について

(平成 18 年 2 月 23 日日本学術会議第 9 回幹事会申合せ)

委員会の運営要綱又は設置要綱を改正することにより分科会、小分科会又は小委員会を設置提案する際には、設置目的、審議事項等を明らかにするため、下記に示した様式も併せて提出することとする。

なお、設置提案の説明は、原則として設置提案者である委員長が行う。

記

(様式)

〇〇〇委員会分科会（小分科会、小委員会）の設置について

分科会等名：

1	所属委員会名（ <u>複数の場合は、</u> <u>主体となる委</u> <u>員会に○印を</u> <u>付ける。</u> ）	
2	委員の構成	
3	設置目的	
4	審議事項	
5	設置期間	時限設置 年 月 日～ 年 月 日
		常設
6	備考	

【記載要領】

設置する分科会等一つにつき1枚、別紙様式の各項目を御記入の上、事務局の担当者に御提出ください。なお、複数の委員会の下に設置される分科会等である場合には、委員会間で調整の上、連絡窓口となる委員会から御提出ください。

○ 分科会等名

新たに設置する分科会等の名称を記入してください。

1 所属委員会名

分科会等を設置する委員会の名称を記載してください。なお、複数の委員会の下に設置される分科会等である場合には、委員会間で調整の上、複数の所属委員会名を記載するとともに、主体となる委員会に○印を付けてください。

2 委員の構成

分科会等の委員の構成を記入してください。なお、人数については、分科会等として活動できる人数の範囲を考慮の上、記入してください。

(例) 「○名以内の会員及び×名以内の連携会員」

「○名以内の会員又は連携会員」

3 設置目的

分科会等の設置目的を200～300字程度で記入してください。

4 審議事項

分科会等における審議事項を50字以内で記入してください。なお、具体的な課題を設定して審議を行う場合は、そのことを示して報告書の作成時期についても記入してください。

(例) ・具体的な課題を設定しない場合

「○○○○○の審議に関すること。」

・具体的な課題を設定する場合

「○○○○○の審議に関すること。なお、□年△月を目途に報告書を作成する。」

5 設置期間

「時限設置」又は「常設」のいずれかに○印を付けてください。また、「時限設置」の場合には、始期と終期を記入してください。

6 備考

その他、何か記載すべき事項がありましたら記入してください。

●日本学術会議の運営に関する内規(平成 17 年 10 月 4 日日本学術会議第 1 回幹事会決定)

第 3 条 部、委員会又は分科会が提言及び報告を発表する場合、幹事会の承認を得なければならぬ。

2 前項において、分科会の提言及び報告の案については、その分科会が置かれる委員会の承認を得て、当該委員会の委員長が、幹事会に提出することとする。

●日本学術会議分野別委員会及び分科会等について

(平成 20 年 10 月 23 日日本学術会議第 67 回幹事会決定)

II 分野別委員会及び分科会等の組織について

2. 分科会

分野別委員会には、幹事会が定める手続きを経て、分科会及び分科会の下に小委員会を置くことができます(注6)。分科会の委員には、その分科会が置かれる委員会の委員以外の会員又は連携会員を含めることができます。

分野別委員会は、分科会で議決したことを委員会での議決とすることを決定できます(注7)。ただし、Vで述べる提言及び報告等に関しては、必ず委員会での審議が必要です。

(注6) 委員会の分科会等の設置提案をする際に用いる付属様式等について・・・(別紙2)

(注7) 会則第 27 条第 2 項に基づく委員会決定・・・(別紙3)

V 分野別委員会又は分科会の提言及び報告等について

① 外部に対する日本学術会議の意思の表出としては、勧告・要望・声明・提言・報告・回答(以下「報告書等」という。)があります。その中で、委員会等の名称で行うことができるのは提言及び報告のみです。勧告・要望・声明・回答については、「日本学術会議」の名称により表出を行うこととなります。小委員会名では報告書等を出すことはできません。

② 公表に当たっては、総会又は幹事会(注16)の承認が必要です。委員会等の名称で公表しようとする場合も同様です。総会又は幹事会における報告書等の説明者は、原則として、委員会等の委員長となります。

(注16) 総会の構成員は、会員 210 名。幹事会の構成員は、会長、各副会長、各部長、各副部長及び各幹事の 16 名。

8	
幹事会	79

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

- 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

日本食育学会
整形外科リハビリテーション学会

団体の概要

- 日本食育学会
食料の生産と消費、食生活改善、疾病予防、食文化の継承、食品の安全性確保と消費者の理解を高めるための食育活動の展開を図り、国民に正しい食生活を示して、わが国の食環境の整備と向上に資することを目的としている。
- 整形外科リハビリテーション学会
整形外科リハビリテーションに関する科学的原理の蓄積、技術の研鑽及び向上に努め、もって理学療法学、作業療法学の発展に寄与することを目的としている。

9	
幹事会	79

提 案

平成21年度代表派遣の変更について

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり決定すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第21条の規定に基づくものである。

<参考> 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」(抄)

(派遣実施計画の変更等)

- 第21条** 関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画若しくは派遣者の変更をすべき事情が生じた場合は、その理由を付して速やかに会長に通知しなければならない。
- 2 会長は、前項の規定による通知があった場合は、理由を付して改めて幹事会の承認を得るものとする。ただし、やむを得ない事由により事前に幹事会の承認が得られない場合は、事後に追認を求めるものとする。

別紙

会議名称	派遣期間（会期分）	開催地（国）	派遣者	変更内容	変更理由
第45回IUPAC総会/第42回IUPAC会議	7月31日～8月6日 ↓ 7月31日～8月7日	グラスゴー（英国）	長谷川 美貴	派遣期間の変更	派遣者の都合のため
アジア社会科学研究協議会連盟 （AASSREC）第18回隔年総会	8月27日～8月29日	バンコク（タイ）	岡本 耕平 ↓ 伊藤 達雄	派遣者の変更	派遣者の都合のため

10	
幹事会	79

提 案

シンポジウム「サハラソーラーブリーダー計画」の開催について

- 1 提案者 総合工学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 総合工学委員会
- 2 後 援 (依頼中を含む)
(独) 科学技術振興機構、(独) 物質・材料研究機構、(独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構、(独) 産業技術総合研究所、(財) 旭硝子財団、(財) 総合工学振興会、(独) 日本学術振興会 (175、146、151、153、161、162 委員会)、(財) 太陽光発電技術研究組合、(社) 日本工学アカデミー、(社) 未踏科学技術協会、(財) 神奈川科学技術アカデミー、(株) 三菱総合研究所
3. 日 時 平成 21 年 6 月 30 日 (火) 13:10 ～ 17:40
4. 場 所 日本学術会議 講堂 (港区六本木 7-22-34)
5. 参加費 無料
6. 次 第

開催趣旨

2005年7月の英国グレンイーグルスでのG8サミット以来、G8(日、米、英、仏、独、カナダ、イタリア、ロシア)+5(インド、中国、ブラジル、南アフリカ、メキシコ)諸国の学術会議はサミットの1～数ヶ月前に集まり、1～2の主要議題を取り上げて協議し、サミットに向けた声明を採択し勧告してきた。昨年7月の洞爺湖サミットにむけたG8+5学術会議は3月に東京で開かれ、6月に声明:1)気候変化:適応策と低炭素社会への転換、2)Global Healthを発した。本年(2009)は、3月末にローマで学術会議G8+5に加えてエジプトがオブザーバー参加して開かれ、当初の主要議題として、1) New technologies for energy および 2) International migration が設定された。日本学術会議(SCJ)は、テーマ1)のエネルギー問題について、” Sahara solar breeder plan directed towards global clean energy superhighway” と題した提案を発表した。

この計画は、太陽光発電と材料工学、超伝導と線材技術、電工学など、各種材料と産業技術の組み合わせを必要とする総合工学領域のイノベーション課題と言えます。

本シンポジウムでは、サミットで一貫して取り上げられてきた地球環境・エネルギー問題への学術会議の取り組みを中心に、地球規模課題への日本の技術と教育貢献、外交戦略の現状を紹介し、未来について議論する。一例として SSB 計画の地球規模超伝導送電ネットワーク展開を取り上げ、夢のエネルギーシステム実現に向けた技術的、政治経済的課題、国際協力、現地人材の育成シナリオを総合的に討議する。

開会あいさつ (13:10 ~ 13:25)

矢川元基 (東京大学名誉教授、日本学術会議総合工学委員会委員長)

金澤一郎 (東京大学名誉教授、日本学術会議会長)

中原恒雄 (日本工学アカデミー会長)

I. 講演 (13:25 ~ 15:45)

司会：川合真紀 (東京大学教授/理化学研究所主任研究員, 日本学術会議連携会員)

1) 13:25-13:40 唐木英明 (日本学術会議副会長)：サミットと学術会議 G8+5 声明

2) 13:40-14:05 中田真佐美 (UNESCO・Asia 科学技術プログラム専門官)：
ユネスコの環境・エネルギー教育活動

3) 14:05-14:30 黒川浩助 (東京工業大学特任教授)：
IEA-PVPS プログラム- “Energy from the desert”

4) 14:30-14:55 吉川暹 (京都大学特任教授)：
京大の太陽光発電研究とアフリカ学術協力(EJUST)

5) 14:55-15:20 佐藤謙一 (住友電工・主幹研究員)：
超伝導線材と直流送電技術の現状と未来

5) 15:20-15:45 鯉沼秀臣 (NIMS 特別顧問、日本学術会議連携会員)：
サハラソーラーブリーダー計画-学術会議 G8+5 ローマ会議提案-

II パネル討論—課題先進国の新たな挑戦 (16:00 ~ 17:30)

司会：下山淳一 (東京大学准教授)

パネリスト (話題提供:各 10 分)：

小宮山宏 (三菱総研理事長)、善里順信 ((財) 太陽光発電技術研究組合事務局長)、
吉井讓 (東京大学教授)、

山口作太郎 (中部大学教授)、藤原洋 (インターネット総合研究所/ナノオプトニクス・
エネルギー代表取締役)、

会場との質疑応答 (40 分)：講演者およびパネリストと聴衆の質疑応答

閉会あいさつ：北沢宏一 (JST 理事長、日本学術会議会員)

III 懇親会 (18:00 ~ 19:30) はあといん乃木坂 (会費 2,000 円)

参加申込方法

E-mailもしくはFaxにて以下の事項ご記入の上、お申し込みください。

.....

氏名：

所属：

連絡先電話番号：

E-mailアドレス：

懇親会参加希望の有無：

.....

<連絡申込み先>

東京大学生産技術研究所 藤岡研究室、 担当：高野早苗

E-mail: tabo@iis.u-tokyo.ac.jp Fax: 03-5252-6343

*定員（200名）となり次第、締め切りとさせていただきます。

1 1	
幹事会	7 9

提 案

- 1 提案者 第一部長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

市民公開シンポジウム「市民社会のなかの人文・社会科学—市民との対話—」

- 1 主 催 日本学術会議第一部、日本学術会議北海道地区会議、北海道大学
- 2 後 援 (財)日本学術協力財団、札幌市(予定)
- 3 日 時 平成 21 年 7 月 26 日(日) 14:00~17:00
- 4 会 場 北海道大学文系共同教育研究棟 講義室 8
- 5 部 会 平成 21 年 7 月 25 日(土)13:00~17:00
 " " ~26 日(日)10:00~12:00

6 開催趣旨

第一部夏季部会を北海道大学で開催するに当たり、日本学術会議の活動の一環として、人文・社会科学の諸学問が現代社会に生起している様々な課題にいかに関与しているか周知することを目的に「市民公開シンポジウム」を開催する。

この趣旨から、講演のテーマとして「裁判員制度」、「育児と男女共同参画」、「電腦文化」、「核軍縮」といった身近な問題を取り上げるものである。

7 次 第

開会挨拶(14:00~14:15)

広渡 清吾 (日本学術会議第 1 部部長、専修大学法学部教授)

佐伯 浩 (北海道大学総長)

講 演 (14:15~16:50)

司会 木村 茂光 (日本学術会議第 1 部幹事、東京学芸大学教育学部教授)

(1) 「なぜ、なんのための裁判員制度なのか」 (14:15~14:50)

井田 良 (日本学術会議会員、慶應義塾大学大学院法務研究科教授)

(2) 『三歳児神話』は『真話』なのか—男女共同参画の推進とワークライフバランスの構築— (14:50~15:25)

内田 伸子 (日本学術会議会員、お茶の水女子大学大学院教授)

~ 休 憩 ~ (15:25~15:40)

(3) 「電腦遊戲が開く美的文化の諸相」 (15:40~16:15)

西村 清和 (日本学術会議連携会員、東京大学人文科学系研究科教授)

(4) 「ついに核軍縮の時代へ—核なき世界への道筋—」 (16:15~16:50)

猪口 邦子 (日本学術会議会員、衆議院議員)

閉会挨拶 (16:50~17:00)

岸 玲子 (日本学術会議会員、日本学術会議北海道地区会議代表、北海道大学大学院医学研究科教授)

1 2	
幹事会	7 9

提 案

日本学術会議第三部主催市民公開講演会
～環境共生都市と未来エネルギーを考える～

1. 提 案 者 第三部部長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

3. 主 催 日本学術会議第三部、九州大学
4. 後 援 財団法人日本学術協力財団、
福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会
5. 日 時 平成 21 年 8 月 11 日（火） 15：00～17：00
6. 場 所 九州大学箱崎キャンパス国際ホール
7. 議事次第
開催趣旨

第三部が夏季部会を九州で開催するにあたり、一般市民を対象とした講演会を開催する。

内容としては、一般の聴衆に興味があり、また理解しやすい話題を、実際にその研究の第一線で活躍している科学者に話していただくことにし、「環境共生都市－都市社会とみどり・農から、SATOYAMAイニシアチブまで」、「未来エネルギーとしての核融合」の2テーマについて取り上げた。

プログラム

- 司 会：後藤 俊夫（中部大学副学長、日本学術会議第三部副部長）
挨 拶：岩澤 康裕（電気通信大学教授、日本学術会議第三部部長）
来賓挨拶：有川 節夫（九州大学総長、日本学術会議連携会員）
テーマ1：「環境共生都市－都市社会とみどり・農から、SATOYAMA イニシアチブまで」
進士 五十八（東京農業大学教授、日本学術会議第三部会員）
テーマ2：「未来エネルギーとしての核融合」
伊藤 早苗（九州大学教授、日本学術会議第三部会員）

13	
幹事会	79

提 案

公開シンポジウム
「今、医療の最前線では？」の開催について

1. 提案者 第二部部長
2. 提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。
(第二部夏季部会開催時の公開シンポジウム)

記

1. 主 催：日本学術会議第二部、大阪大学
2. 後援：(財)日本学術協力財団(内諾)、日本医歯薬アカデミー、朝日新聞社(内諾)、科学新聞社、メディカルトリビューン社、大阪大学GCOEプログラム、(財)住友病院
3. 日 時：平成21年8月18日(火) 13:00～18:00
4. 場 所：大阪大学中之島センター 10階 佐治敬三メモリアルホール
5. 部会：当日第二部会を開催
6. 次第

開催趣旨：医療の進歩は、予防、診断、治療の点で、目覚ましい発展をとげているが、病気に悩む方々が、必ずしもこの最前線の医療の恩恵を十分に受けているとはいえない。日本学術会議会員を中心とした専門家により、“大坂の地”で、緒方洪庵が目指した適塾の精神や天然痘との戦いの歴史をご紹介し、その偉業を振り返るとともに、最先端医療の進歩をやさしく解説する。

13:00-13:10 開会挨拶

鷺田 清一 (大阪大学総長)

金澤 一郎 (日本学術会議会長、宮内庁皇室医務主管)

13:10-14:10 プロローグ

13:10~13:40

「緒方洪庵と日本の医学」

芝 哲夫（大阪大学名誉教授）

13:40~14:10

「緒方洪庵の天然痘との戦い」

加藤 四郎（大阪大学名誉教授）

14:10-18:00 講演

14:10~14:35

「がん対策・がん医療の最前線」

廣橋 説雄（日本学術会議第二部会員、国立がんセンター総長）

14:35~15:00

「脳を守ろう—脳は何故壊れやすいのか」

桐野 高明（日本学術会議第二部会員、国立国際医療センター総長）

15:00~15:20

（休憩）

15:20~15:45

「肥満を科学する—賢い脂肪細胞」

松澤 佑次（日本学術会議第二部会員、（財）住友病院院長）

15:45~16:10

「先端医療と画像」

富樫 かおり（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院医学研究科教授）

16:10~16:35

「最新医療が患者にもたらしたもの」

内布 敦子（日本学術会議連携会員、兵庫県立大学看護学部教授）

16:35~16:45

（休憩）

16:45~17:10

「歯と生きがい」

渡邊 誠（日本学術会議第二部会員、東北大学国際高等研究教育機構教授）

17:10~17:35

「創薬の最前線：ドラッグデリバリーシステム」

橋田 充（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院薬学研究科教授）

17:35~18:00

「心不全に対する最近の治療 移植から再生まで」

澤 芳樹（大阪大学医学系研究科教授）

18:00 閉会の辞

浅島 誠（日本学術会議第二部部長、産業技術総合研究所フェロー兼器官発生工学研究ラボ長）

14	
幹事会	79

提 案

公開シンポジウム

「ダーウィン生誕200年記念シンポジウム ダーウィンを超えて
－21世紀の進化学」の開催について

1. 提案者 基礎生物学委員会委員長、応用生物学委員会委員長
2. 提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同
進化・系統学分科会
2. 日 時：平成21年8月22日（土）13：00～17：00
3. 場 所：東京大学安田講堂（文京区本郷7-3-1）
4. 分科会：当日分科会を開催

5. 開催趣旨：

2009年は、進化論を唱えたチャールズ・ダーウィン（Charles R. Darwin）の生誕200年にあたり、さらに、自然選択による進化論を展開した『種の起源』（初版1859年刊）の出版150周年にもあたる。

このため、日本学術会議進化・系統学分科会、ならびに日本進化学会、日本動物学会では、生物学・進化学におけるダーウィンの業績を称え、進化学の普及のために、中高生・一般向けに『ダーウィン生誕200年記念シンポジウム ダーウィンを超えて－21世紀の進化学』を開催する。

6. 次 第：

第一部 講演 21世紀の進化学の最前線とその教育

- ・「植物になる進化」井上 勲（筑波大学、日本学術会議連携会員）

- ・「ダーウィンを超えて植物進化を解く」
長谷部 光泰（基礎生物学研究所、日本学術会議連携会員）
- ・「共生と生物進化」 深津 武馬（産業技術総合研究所）
- ・「脊索動物の起源と進化」
佐藤 矩行（沖縄科学技術研究基盤整備機構、日本学術会議連携会員）
- ・「ゲノムからみた脳・神経系の起源と進化」
五條堀 孝（国立遺伝学研究所、日本学術会議連携会員）
- ・「危機から生まれた哺乳類：脳進化」 岡田 典弘（東京工業大学）
- ・「迅速な適応性：昆虫の学習と進化ゲーム」
嶋田 正和（東京大学、日本学術会議連携会員）
- ・「中高生にどのように進化を教えるか？」
中井 咲織（立命館宇治中学高等学校）

第二部 パネルディスカッション 進化教育と生物多様性条約の動き

進行：嶋田正和、中井咲織

パネラー：井上勲、長谷部光泰、深津武馬、佐藤矩行、五條堀孝、岡田典弘、
伊藤元己（東京大学）

15	
幹事会	79

提 案

公開シンポジウム
「今後の肉用牛の改良の方向性－牛肉のおいしさに注目して－」
の開催について

1. 提案者 食料科学委員会委員長
2. 提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、肉用牛研究会、
2. 日 時：平成21年10月9日（金）9：00～12：00
3. 場 所：西郷村文化センター大研修室
4. 分科会：前日分科会を開催
5. 開催趣旨：
近年牛肉に対する価値をはかる上で、おいしさに注目が集まりつつある。おいしい牛肉とはどういうものか、おいしさをターゲットとした肉用牛の改良は可能なのかなど、今後の肉用牛改良の方向性について討論を行う。
6. 次第

9：00－9：10 挨拶

矢野 秀雄（（独）家畜改良センター理事長、日本学術会議会員）

9：10－9：30 話題提供

「福島県における肉用牛改良」

松井 滋（福島県農業総合センター畜産研究所肉畜科長）

9 : 3 0 - 1 0 : 0 0 特別講演Ⅰ

「最近における和牛の格付け状況からみた今後の方向性について」

船本 富弘 ((社)日本食肉格付協会専務理事)

1 0 : 0 0 - 1 0 : 3 0 特別講演Ⅱ

「黒毛和種の産肉能力および生産性における改良の現状と課題」

向井 文雄 ((社)全国和牛登録協会会長・会長理事)

1 0 : 3 0 - 1 2 : 0 0 パネルディスカッション

・パネリスト

船本 富弘 ((社)日本食肉格付協会専務理事)

向井 文雄 ((社)全国和牛登録協会会長・会長理事)

入江 正和 (宮崎大学農学部食料生産科学科教授、日本学術会議連携会員)

河村 正 ((独)家畜改良センター技術部技術第二課長)

・座長

池内 豊 ((独)家畜改良センター技術部長)

16	
幹事会	79

提 案

公開シンポジウム

「社会格差と健康－公衆衛生の重要課題の対策に向けて」の開催について

1. 提案者 基礎医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長
2. 提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会、日本公衆衛生学会
2. 日 時：平成21年10月21日（水）18：00～20：00
4. 場 所：奈良県文化会館
〒630-8213 奈良県奈良市登大路町6-2
5. 分科会：当日分科会を開催
6. 次第

開催趣旨：景気の悪化によって派遣労働者など仕事を失う人が増え社会格差が拡大している。また生活困窮者や生活保護受給者も増加している。この格差は社会経済的な側面にとどまらず健康にも影響を及ぼすことが分かってきている。WHO（世界保健機関）の「健康の社会的決定要因（social determinants of health）」委員会は、2008年、世界規模での健康の社会格差の対策のための提言を公表した。

本シンポジウムでは、わが国における社会格差と健康の実態をさらに詳細に明らかにするとともに、公衆衛生におけるその対策のあり方について検討する。WHO「健康の社会的決定要因」委員会の最終報告書の提言内容を紹介すると共に、日本における社会格差と健康問題の実態に関する地域、職域からの報告をいただき、さらに健康インパクト評価（Health Impact Assessment）などの手法を用いた対策に向けての取り組みの可能性を公衆衛生関係者、市民と共に考えたい。

座長 近藤克則（日本福祉大学教授）、岸 玲子（日本学術会議第二部会員）

1. 主催者（日本学術会議）の挨拶（15分）

岸 玲子（日本学術会議第二部会員、同基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会委員長、北海道大学大学院医学研究科教授・公衆衛生学分野教授）

2. 社会格差と健康の「確固たる事実」と対策－WHO 健康の社会的決定要因委員会の最終報告（20分）

橋本英樹（東京大学大学院医学系研究科臨床疫学・経済学教授）

3. 日本における社会格差と健康問題の実態（15分×2人）

1) 社会格差に視点を置いた地域保健活動

中条桂子（京都山科保健所母子保健・母子家庭対応担当、保健師）

2) 社会経済的要因による健康格差の国際比較－心理社会的ストレスと健康リスク行動の役割

関根道和（富山大学大学院医学薬学研究部保健医学准教授）

4. 対策（15分）

健康インパクト評価（Health Impact Assessment）の可能性と課題

藤野善久（産業医科大学医学部公衆衛生学准教授）

5. 指定発言（10分）

日本公衆衛生学会の対応

川上憲人（日本学術会議連携会員、日本公衆衛生学会公衆衛生モニタリング・レポート委員会副委員長）

6. 討論（30～45分）

17	
幹事会	79

提 案

「サイエンスアゴラ2009～地球の未来 日本からの提案Ⅱ～」の開催について

- 1 提案者 科学と社会委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議、独立行政法人科学技術振興機構、
- 2 共 催 国際研究交流大学村
- 3 日 時 平成21年10月31日（土）～11月3日（火・祝日）
- 4 会 場 国際研究交流大学村
（日本科学未来館、東京国際交流館、産業技術総合研究所臨海副都心センター）
- 5 参加費 無 料

6 次 第 ＜開催趣旨＞

我が国のサイエンスコミュニケーションの基盤整備を目的に、昨年度に引き続き、本年度も「サイエンスアゴラ2009」を下記のとおり開催する。今年は、統一テーマを「地球の未来 日本からの提案Ⅱ」とする。昨年に引き続くテーマであるが、地球規模の気候変動だけでなく、感染症の世界的流行、米国に代表されるグリーンエネルギーへの政策転換など、急転しつつある事態を踏まえて、昨年よりも幅広く取り上げる予定である。すべての人々が豊かに生きられる社会を実現するために科学技術とどのように付き合うべきか、研究者から広く一般市民まで、科学技術に携わる多様な層の人々と、考え提案する場を目指す。本イベントはまた、科学コミュニケーションに携わる多様な人々が参加して情報交換や成果の蓄積を行う機会でもある。

＜プログラム等＞

プログラムは、以下の企画から構成される。

講演型・討論会型：シンポジウム、セミナー、報告会、討論会など、演壇・講演台でのプレゼンテーションを行う企画。

参加型：工作教室、小グループに分かれてのディスカッション、サイエンスカフェ、参加者の作業を伴う講習会などの企画。

ショー形式：サイエンスショー、実験ショー、演劇、演奏会、紙芝居などの企画。

ポスター・ブース展示型：ポスターセッション、ブース展示、体験設備展示などの企画。

7 問い合わせ先

独立行政法人 科学技術振興機構 科学ネットワーク部

サイエンスアゴラ事務局（担当：渡辺・菅原）

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3 サイエンスプラザ

TEL：03-5214-7625 FAX：03-5214-8088 e-mail：agora@jst.go.jp

18	
幹事会	79

提 案

シンポジウム「機械工学の展望---21世紀の役割と貢献---」の開催について

- 1 提案者 機械工学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 機械工学委員会、日本機械学会
2. 後 援 (依頼中)：(社)化学工学会、(社)可視化情報学会、(社)空気調和・衛生工学会、(社)計測自動制御学会、(社)自動車技術会、(社)精密工学会、ターボ機械協会、(社) 日本音響学会、(社)日本ガスタービン学会、日本計算工学会、(社)日本原子力学会、(社)日本航空宇宙学会、(社)日本材料学会、(社)日本船舶海洋工学会、(社)日本塑性加工学会、(社)日本鋳造工学会、(社)日本伝熱学会、(社)日本トライボロジー学会、日本燃焼学会、(社)日本マリンエンジニアリング学会、(社)日本流体力学会、(社)日本冷凍空調学会、(社)日本ロボット学会、(社)溶接学会
3. 日 時 平成 21 年 11 月 5 日 (木) 13:00-16:30
4. 場 所 日本学術会議 講堂 (東京都港区六本木 7-22-34)
5. 参加費 無料
6. 次 第

開催趣旨

日本学術会議は、学術研究の長期展望について主要なテーマあるいは専門分野ごとに検討し、2010年春にそれらをまとめて総合的な提言「日本の展望-学術からの提言 2010」を公表し、また、その内容に沿って第4期科学技術基本計画に反映されるべき重要事項を政府に提言する予定である。これらは、今後の我が国の研究・教育の方向性に大きな影響をもつことになる。この中で、機械工学分野については、日本学術会議機械工学委員会を中心に長期展望が検討されており、「機械工学の展望」の大要がまとまりつつある。本シンポジウムでは、その検討結果を基に議論を深め、機械工学の課題と求められる今後の活動を明らかにし、科学技術のさらなる発展とイノベーション創出に供することを目的とする。

開会挨拶 13:00-13:10

広瀬茂男 (東京工業大学 教授、日本学術会議連携会員)

基調講演 1 (13:10-13:55)

「機械工学の展望 (日本の展望)」

笠木伸英 (東京大学 教授、

日本学術会議機械工学委員会委員長 第三部会員)

基調講演 2 (13:55-14:40)

「機械工学の将来と機械学会」 有信睦弘 (株東芝 顧問、日本機械学会 会長、
日本学術会議連携会員)

休憩 (14:40-14:50)

パネルディスカッション (14:50-16:20)

基調講演者を除くパネラーに各 10 分以内の講演ののちに、ディスカッション
パネラー

有信睦弘 (株東芝 顧問)、
笠木伸英 (東京大学 教授)、
白鳥正樹 (横浜国立大学 教授、 連携会員)、
柘植綾夫 (芝浦工業大学 学長、 第三部会員)、
古川勇二 (職業能力開発総合大学校 校長、 第三部会員)

司会 森下信 (横浜国立大学 教授)、
北村隆行 (京都大学 教授、 第三部会員)

閉会挨拶 (16:20-16:30)

岸本喜久雄 (東京工業大学 教授、 第三部会員)

申込方法 本シンポジウムに参加ご希望の方は、事前に日本機械学会 野口
(noguchi@jsme.or.jp) 宛、お名前、ご勤務先、お電話番号、メールアドレス
をご連絡願います。

定員 300名 (事前申込者を優先します)。

19	
幹事会	79

提 案

「第56回構造工学シンポジウム」の開催について

1. 提案者 土木工学・建築学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議 第三部 土木工学・建築学委員会
2. 共 催 日本建築学会・土木学会
3. 日 時 平成22年4月22日(木)～23日(金) 10:00～17:00(予定)
4. 場 所 日本学術会議・講堂
5. 開催趣旨 主として土木構造・建築構造物にかかわるすべての工学技術についての論文・報告で、目的・方法・結論等の明記された、理論的または実証的な研究論文、あるいは、新しい知見を含み学術的に価値の高い、特色のある資料・調査・計画・実験・施工等の報告等など、構造工学の発展に寄与すると考えられる論文・報告の募集を行い、発表講演と討議、特別講演、パネルディスカッションをこのシンポジウムで行う。
6. 次 第
 - 開会挨拶 濱田 政則(早稲田大学教授/土木工学・建築学委員会委員長)
 - 特別講演 和田 章(東京工業大学教授/土木工学・建築学委員会幹事)
 - パネルディスカッション テーマ未定
 - 一般講演 投稿論文の査読後に決定する(平成22年1月以降)。
7. 参加方法 自由参加
8. 参加費 無 料
9. その他

講堂以外に会議室の利用を従来どおりお願いする予定ですが、その利用数については、準備日の平成22年4月21日から終了日の23日までの期間において、日本学術会議における諸活動に支障をきたさない範囲で配慮させていただく予定です。

10. ご参考

次回の特別講演会の題目やパネルディスカッションのテーマは未だ決まっておりませんが、過去4年間の例は表-1のとおりです。特別講演会の題目からご理解いただけるとは思いますが、複数の分野が共同して開催するシンポジウムのひとつと判断できると思われま

表-1 構造工学シンポジウムのテーマの経緯

開催年	開催場所	特別講演会題目	土木・建築合同 パネルディスカッション テーマ
2009年 第55回	日本学術会 議	社会・都市基盤の事故災害リスク の低減とモニタリング	モニタリングが開く構 造工学の可能性
2008年 第54回	大阪大学コ ンベンショ ンセンター	建築と橋梁における素材と構造デ ザイン	新素材による建設構造 の新たな発展の可能性
2007年 第53回	日本学術会 議	性能設計概念に基づいた設計コー ドの開発：Code platform ver.1 と基礎構造物等の設計原則	土木・建築の構造工学 を荷重から眺める
2006年 第52回	日本建築学 会 建築会館	構造工学の発展に大型構造実験は 寄与できるのか—期待と不安—	大型実験による構造工 学の新たな挑戦

以上

20	
幹事会	79

提 案

国内会議の後援

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審 議 付 託 先
日本熱物性シンポジウム ① 主催：日本熱物性学会 ② 期間：平成 21 年 10 月 28 日～30 日 ③ 場所：山形県米沢市「伝国の社」	日本熱物性学会 会長	第三部
平成 21 年度衝撃波シンポジウム ① 主催：日本衝撃波研究会、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部、東北大学流体科学研究所 ② 期間：平成 22 年 3 月 17 日～19 日 ③ 場所：埼玉大学総合研究棟	平成 21 年度衝 撃波シンポジウ ム実行委員長	第三部
第 3 回日本社会福祉学会フォーラム ① 主催：日本社会福祉学会 ② 期間：平成 21 年 7 月 25 日 ③ 場所：龍谷大学	日本社会福祉学 会会長	第一部
第 35 回全国語学教育学会年次国際大会 ① 主催：特定非営利活動法人全国語学教育学会 ② 期間：平成 21 年 11 月 20 日～23 日 ③ 場所：静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ	特定非営利活動 法人全国語学教 育学会代表者	第一部
文部科学省次世代 IT 基盤構築のための研究開発第 1 回「イノベーション基盤シミュレーションソフトウェアの研究開発」プロジェクトシンポジウム ① 主催：東京大学生産技術研究所 ② 期間：平成 21 年 7 月 30 日～31 日 ③ 場所：東京大学生産技術研究所コンベンションホール	東京大学生産技 術研究所長	第三部
「機械の日」・「機械週間」 ① 主催：社団法人日本機械学会 ② 期間：平成 21 年 8 月 1 日～7 日 ③ 場所：芝浦工業大学豊洲キャンパス	社団法人日本機 械学会会長	第三部